

児童・生徒の作品コーナー



日吉小学校児童の紹介



76

我が家の家庭教育

橋場 柳原 秋子

主人が半日ばかりで作った専用の踏み台に乗って、息子がお米洗いの最中です。左の肩をちよつと上げて、見様見まねの手付きはなかなかのものです。

そして時々、夕食後の食器洗いも息子の仕事になります。これもまあまあ程度には

やってくれていて、どうやら「本当の男は、思いやりがあつて、やさしくなければいけない」という私論を實踐して、それこそ食器洗いから、息子のズック洗いまで、私が間に合わない時にはなんでも気軽に手伝ってくれる主人の影響が大の様です。

ゆつくり子育て中

さて その子

家は、住まいがそのまま主人の職場ですから、私も主人の仕事には大いに係わつていて、「ここまでが男の領域で、家事は女のすること」という一般的な概念にはとられず「協力的、助け合う」というのが家流の生活形態があつて、息子の中にも、男が家事をす

ることに對する不思議さなどはみじんもないのです。ですから、「何かある時はお願いしてヨ、ボク手伝うからね」と、うれしいことを言つてくれて、私は、この2代目「お助けマン」を結構当てにして

1年

川島 渚さん



※とうもろこしをかくところ、むずかしかったです。



『とうもろこしをたべている友だち』

2年

土屋 英利くん



※雨ふりにかさをさしている人をかきました。かさがむずかしかったです。



『雨ふり』

い、それにとってもやさしいのです。以前、何かの本で「子供のやさしさは主体性に欠ける幼さの表われ」などという記事を読んで、「本当はもつと色



▲お父さんの気性を受け継ぎ、とてもやさしい悠介くん

り子育てを心がけています。しかし、それでも、子供社会の小さな出来事にははらすることも多く、至らない母としては、問題はまだまだこれからののだと覚悟せざるを得ない様ですが、とにかく今は、18年目にして授かった一人のわが子のために、ふんわりと居心地の良いこの空気だけは大切にしたいと、主人にそっくりのお米洗いの仕種を見ながら思うのです。